

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	新しい生活様式に合わせた「買物・食事」事業
資金分配団体名:	公益財団法人佐賀未来創造基金
実行団体名:	九州ケータリング協会
実施時期:	2020年11月～2021年10月
事業対象地域:	佐賀県
事業対象者:	高齢者施設利用者/高齢者施設職員/高齢者施設周辺の住民

Version 3.2

日付: 2021年11月1日

I. 事業概要

事業実施概要	従来より介護施設の人手不足より、入居者への食事提供の品質が充分に対応できていない。コロナ禍において、更に人手が不足し、この状況が悪化した。食事提供のみならず、食事等のための買い物についても制限が発生した。三密対策によるスーパー等の入場制限である。本事業は、一部施設でテストトライアル開始している食事支援と買い物支援を県内全域へ本格展開を開始する。目的としては新しい生活様式にあわせた、高齢者等へ満足度が高いサービスを、事業として再構築していく。その上で、その施設の職員と、周辺に居住する高齢者宅へも、食事や買い物支援を実施し、コロナ禍における成功モデルを構築する予定である。
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>(課題の設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 深刻化した社会課題への対応の適正性: コロナ禍における濃厚接触をさけるための施設における高齢者や、地域の高齢者の孤立化による、「食事・買い物」という課題については、コロナ初期から拡大期・減少期と課題があることは、県内約100施設へのヒヤリングなどで確認できた。一方で、対応へのむけたアプローチを様々な方法を通じて実施したものの当団体そのものが高齢者施設や高齢者からも見た時の濃厚接触先となり、予定通りに進まない状況であった。しかしながら、8月の豪雨災害がおき、炊き出しという災害食事支援を通じて、いくつかの食事支援とそれを通じたコミュニケーションや、事例の共有などを通じて、事業後半より、アプローチが開始できた。 当初の課題設定の妥当性: コロナが起きる前より、介護現場における人材不足からの食事・買物の問題、核家族化・人口減少による地域高齢者の孤立化・孤立化による食事・買物の問題は、悪化の状況であり、コロナ発生による濃厚接触の課題により、その課題がさらに大きくなったという点では課題設定の妥当性をかんじる。 想定した対象者へのリーチ: 当初想定では、事前にニーズがある10施設への導入検討を進める予定であったが、未知のウイルスという点、高齢者への影響が大きいといわれた点などから、想定通りの面談が進まない状況であったため、リーチを変更した。①高齢者施設職員・利用者へのリーチについては、連携先の紹介や、当団体職員による地道なアプローチを通じて、県内100施設へリーチができ、現状把握や、事例共有などができた点は成果と考える。一方で、②高齢者施設周辺住民については、①のリーチを通じてその次の段階で、リーチするイメージでいたため、苦戦していたが、8月豪雨の炊き出しという対応により、実際に地域高齢者数百世帯に、食事支援ができた点は、成果と考える。 ニーズの変化が起きた場合はその状況と内容等と対応がうまくいったか: ニーズの変化は特におきなかった。 <p>(事業の設計)</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標に対して実行内容が妥当か: 施設へのアプローチについては、ターゲットが明確であったため、紹介や電話・訪問など多様な方法をもちいた実行計画は、当初より妥当であったと感じており、今回の成果は、そこから生まれたものとする。一方で、地域住民については、災害時の炊き出し支援という点で接点があったことは成果ではあるが、当初計画とは違う形での成果となった。 <p>(プロセスの変化)</p> <ul style="list-style-type: none"> 工夫したこと: 事業当初は、すでに商談をしていた10施設へのアプローチを重点におき、そこでの確実な成果をだす体制で望んでいたが、コロナの長期化によりそれら施設でも、濃厚接触の対応により、外部からの面談禁止が長く続いたため、アプローチを、県内全域に広げ、細かく丁寧に1つ1つ紹介や電話・訪問を通じたアプローチに変更した点が工夫である（8月災害時の炊き出しもそのアプローチによる接点があれば実現しなかったかもしれない） 実施方法を想定から変更したこと: 当初想定ではニーズのある10施設を中心に事業を進める予定であったが、高齢者への感染や重症化の影響がみえない状況下での検討や導入が難しいという環境がつついたため、県内全域の100施設へのアプローチに変更した。導入を目指したアプローチをしたが、まずはニーズや課題調査とその提案を実施した。
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
中間支援者	食料関連の不足	テストトライアル10施設にて、買物代行・食事提供を実施する。	買物代行・食事提供をした高齢者施設数	高齢者施設 10施設の70%実施	3施設への提供をす る実績をだし、かつ さらに10施設程度 のこれから導入をす る先の開拓ができた	当初のテストトライアル10施設への提案がコロナの長期化により実現しない状況であった。コロナウイルスの高齢者への感染や重症化の状況がみえない状況が長くつづいたため、施設側より、商談や提案のための相対での面会（試食などが必要なためオンラインでの実施困難であった）や、導入にむけた施設内での食事作成への抵抗が強い状況があったため、県内全体100施設へのアプローチに変更したことで、県内全ての現状やニーズを把握することができた。具体的には、訪問先リストを別紙の通りであるが、施設における食事作成の外部への委託という点についての可能性をヒヤリングし導入にむけた課題などを確認できた。踏まえて、当会として提供できるメニューや体制などを提案したが、県内における実績がない点、コロナ禍がおさまりたいという点にすぐの導入にはいたらなかった。またこのアプローチによる人的関係性をベースに、8月の豪雨の災害対応で、3施設への食事支援という実績ができたことは大きい。この事例をもとに、他施設にも提案し10施設ほどが今後の導入の可能性がついた
高齢者	食料関連の不足	10施設の周辺地域の住民への買物代行・食事提供を実施する。	買物代行・食事提供をした世帯数	1施設当たり周辺10世帯への実施	災害時の炊き出しではあるが数百世帯への提供ができ、その後の展開可能性をつくれた	上記目標である施設への導入後の、周辺住民というアプローチであったため、施設への導入が当初よりも遅れている状況より、直接アプローチなど検討をしている状況の中で、災害発生・炊き出し支援という事例ができた点は大きいと感じる。具体的には、「高齢者の食事の好みや栄養などを仮説でなく実現できた点」「本提供を通じて施設とのコミュニケーションが強化されコロナ落ち着き後の導入可能性が高まった点」があげられる。運の要素もあるが、上記の通り、県内全体の施設へのアプローチを丁寧におこなった成果と考える

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	テストトライアル地域における成功モデルが構築でき、他地区への展開ができていない状態にしたいと思っています。特に、テストトライアルのタイミングでは、休眠預金を活用させていただき、人件費等活動経費を捻出するが、2年目以降継続した提供をするための活動資金作りも視野にいれた取組をし、継続した地域課題に貢献したいと思っています
考察等	テストトライアルでのモデル構築はできなかったものの、「県内100施設の現状把握・コミュニケーション」「3施設での食事提供事例」を通じて、県内全体への展開イメージが当団体としてできた点をあげることができる。これらの成果をもとに、2年目よりは、当団体としての自立収益で運用するためのアプローチ方法がみえた点も持続的観点でも有効と考える。具体的には、食事支援合意形成までに、当団体での従前の業務であるイベント開催という点が、施設ニーズもある点がわかり、その提供により、顧客関係作りをしながら、収益をいただき、その後の食事提供という流れをつくることができた

V. 活動

活動	進捗	概要
テストトライアルを実施している施設へ本格導入にむけた買物代行・食事提供の課題ヒヤリング	計画通り	テストトライアル10施設へのヒヤリングにとどまらず、県内100施設へのヒヤリングができた。施設により必要度差はあるが多少なりの興味が感じ取ることが出来た。
上記課題を解決する提案の提示と、本格導入にむけた協議	計画通り	ヒヤリングの内関心ある20-30施設への提案ができたが、更なる感染拡大が発生し最終的な協議が出来ない状況である。
本格導入同意いただいた施設への買物代行・食事提供の実施	遅延あり	当初目標の7施設には届かず3施設への提供のみであるが、次の可能性である8施設とも提案でき、コロナウイルス感染収束する事により導入の検討頂く施設もある為、継続し訪問をする。
実施後の評価、フィードバックをし、改善活動	計画通り	2年目以降の自立化した活動とするべく、活動検証ができた
住民への買物代行・食事提供の提供開始	遅延あり	災害の炊き出しではあるが、当初の目標10世帯を大きく上回る数百世帯への提供ができた。食事内容も高齢者向けの低カロリーのお弁当を提供することができた。
実施後の評価、フィードバックをし、改善活動	計画通り	炊き出しを通じて住民ニーズ等を把握できた事、施設や住民の周辺環境等も確認する事が出来た事により今後の対応や緊急時の対応も可能となった。
他地区へ展開するための検証を実施	計画通り	主に持続的な活動とするための検証ができた。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	当初想定していなかった災害支援という点でも、大きく貢献ができ今後九州全域の災害における食事支援もひろがりをみせた
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	地域の孤立化や、施設の人員不足は改善がされない中であつ、佐賀においては災害発生という点により、分断が生まれ、より課題は複雑化していると感じる。その中で、食事という点を軸に、イベントや、災害支援など多様な支援をすることができ、活動したいに変化ができたと思います。今後も活動を通じてより身近な団体として活動をおこなう。
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	4,600,000	4,600,000	100.0%
	管理的経費	400,000	400,000	100.0%
合計		5,000,000	5,000,000	100.0%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	https://aar.japan.gr.jp/report/1685/
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	https://www.kyusyu-ck.com/
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開しているか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更があり報告済	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されているか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しているか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 外部監査 <input type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	